

平成26年度 研究開発助成事業 イノベーション創出研究支援事業 発展・橋渡し研究補助金（6件）

No.	研究開発テーマ名 および 研究概要	研究者氏名【所属／役職等】
1	<p><b>春採りコンブの利用技術とブランド形成に係る開発研究</b></p> <p>養殖コンブの生産では、乾燥コンブ製造に適した原藻を得るため春に間引きが行われる。本事業では、活用度の低い間引きコンブの利用技術開発を通して「間引き」という消極的な利用形態から「春採り」という積極的な資源利用への転換と新たなブランド形成を進めることにより、道内関連産業の振興に寄与する先導的取組を行う。</p>	<p>木下 康宣 [(公財) 函館地域産業振興財団／研究主査]                  鳥海 滋 [(公財) 函館地域産業振興財団／研究主任]                  清水 健志 [(公財) 函館地域産業振興財団／研究主任]                  山上 慎太郎 [函館魚市場株式会社／営業二部部长]                  入部 太郎一 [函館タナベ食品株式会社／函館本社工場長]                  石田 哲也 [石田水産株式会社／的場工場主任]</p>
2	<p><b>牛伸長胚を利用した現場でできる性判別技術の開発</b></p> <p>牛では雌雄産み分けのニーズが高いが、現状の受精卵(1週齢胚)は非常に小さく、性判別には特殊な機器や技術が必要であり、現場普及を妨げている。そこで本研究では受精後2週齢で目視できるほど大きく成長し、扱いが容易な伸長胚を用いて農場で胚の性別を判定し、希望する性の伸長胚を借り腹牛に移植する方法を確立する。</p>	<p>松崎 重範 [(株)とかち繁殖技術研究所／所長]                  陰山 聡一 [(地独)北海道立総合研究機構畜産試験場／研究主幹]                  平山 博樹 [(地独)北海道立総合研究機構畜産試験場／主査]                  片桐 成二 [酪農学園大学／教授]</p>
3	<p><b>乳牛の体型の立体測定装置の実用化と遠隔判定システムの構築</b></p> <p>乳牛の繁殖性や疾病に直結するボディコンディションスコア(以下BCS)自動判定装置開発に向けて、本研究では、昨年度開発した乳牛体型立体計測装置の実用化を図る。多様な飼養施設環境に適用できるよう携帯型距離画像センサ方式乳牛体型立体測定装置をサンプル提供可能な状態にし、BCSの遠隔判定システムを構築する。</p>	<p>澁谷 良治 [(株)CSソリューション／代表取締役]                  堂腰 顕 [北海道立総合研究機構根釧農業試験場／主査]                  庄内 道博 [(株)CSソリューション／システム統括マネージャ]                  武田 一真 [(株)CSソリューション／主任研究員]</p>
4	<p><b>歯根膜幹細胞を応用した食感再現型次世代人工歯の開発</b></p> <p>歯を失うと噛む力や感覚を失い食の楽しみは半減してしまう。これに対し人工歯としてチタンを骨に打ち込むことで噛む力を再獲得するインプラント治療があるが、周囲に神経組織を介さないため食感は再獲得できない。そこでチタン周囲に再生能力の高い歯根膜幹細胞を介在させ食感をも再現した次世代型人工歯の開発を目指す。</p>	<p>大久保 直登 [北海道大学大学院薬学研究院／博士研究員]                  赤澤 敏之 [北海道立総合研究機構工業試験場／研究主幹]                  宮崎 聡 [井原水産株式会社／課長]                  武田 宏司 [北海道大学大学院薬学研究院／教授]                  北川 善政 [北海道大学大学院歯学研究所／教授]                  中川 宏治 [北海道大学大学院薬学研究院／講師]                  村田 勝 [北海道医療大学／准教授]</p>
5	<p><b>合成糖ペプチドを活用した抗体糖鎖の迅速定量解析法の開発</b></p> <p>本研究では、抗体に存在する2分岐型糖鎖構造を有するペプチドを化学酵素法によって合成し、そのMRMチャンネルを構築することで、トリプシン処理後精製していない夾雑サンプルから抗体由来糖鎖を迅速に定量解析する方法を開発する。また、抗MUC4抗体や抗体医薬品の解析に利用することで、その有用性を実証する。</p>	<p>成地 健太郎 [医化学創薬株式会社／主任研究員]                  比能 洋 [北海道大学先端生命科学研究院／准教授]</p>
6	<p><b>全量副産物ゼロセメント固化体製品の実用化技術の構築</b></p> <p>本研究では、CO2排出量削減、廃棄物削減、副産物有効利用を図るため、セメントに代わる結合材として循環流動層ボイラー灰および高炉スラグ微粉末を用いた全量副産物ゼロセメント固化体製品の実用化のための材料、調合、製造、施工、品質管理に関わる総合的技術を確立し、技術指針を作成する。</p>	<p>濱 幸雄 [室蘭工業大学／教授]                  菅田 紀之 [室蘭工業大学／准教授]                  岸本 嘉彦 [室蘭工業大学／助教]                  佐川 孝広 [日鉄住金セメント(株)／課長]                  伊藤 浩己 [日本製紙(株)／室長代理]                  南 真樹 [(株)南組／事業部次長]                  菊地 一也 [よねざわ工業(株)／課長代理]</p>